

**学園だより**

No.48 H30. 12

発行  
広島県立広島学園  
東広島市八本松町原10844  
電話 (082) 429-0351

## 野球部の活動を通して

監督 小熊 健佑

私にとって今年の夏は、これまで経験した夏の中でも、特に熱い夏になりました。

今年度の野球部は、今年の一月から練習を開始しました。部活動を通して野球の技術もそうですが、「仲間を思いやる」気持ちを持ってほしいと思い、指導をしてきました。

寒い冬の間、走り込みや筋力トレーニング、野球の基礎練習などを行いました。決して楽な練習ではなかったけれど、子どもたちは日々一生懸命練習に取り組みました。しんどくて大変でも仲間への声掛けを忘れず、練習の中でも大きな声、足の揃ったランニング、ひとつひとつが形になっていく姿を見て、子どもの成長はほんとにすごいなと、近くで指導していて感じました。

しかし、野球をこれまでやったことのない児童がほとんどで、ボールの投げ方やバットの握り方、野球のルールなどがわからず、それでもなんとか上手くなるうと頑張っている姿を見て、指導者として「なんとか上手くしてやりたい。」という思いが強くなりました。

四月から他校との練習試合を始め、

中国少年野球大会に向け準備を進めてきました。大会直前に西日本豪雨災害があり、広島県をはじめ多くの地域が災害にあい、大変な状況となりました。大会参加自体がどうなるかわからない中で、多くの人の支えと協力があり、鳥取県で行われた第六十九回中国少年野球大会に参加しました。

子どもたちとこれまで頑張ったことを発揮し、大会に参加させてもらったことに感謝して、全力プレーをしようと思えました。大きな大会で子どもたちは大きなプレッシャーを感じていましたが、練習以上の力を発揮しました。どんなに苦しい場面でもチーム全員で声をかけ、全員で試合を勝ち抜き、見ている人々に感動を与える内容でした。中国少年野球大会の優勝が決まり、金メダルを手にして喜び子どもたちの嬉しそうな表情は忘れられません。あの児童は、「自分は、今まで嫌なことから逃げてきたが、少し変わった気がする。」と言っており、この野球大会が子どもたちの変わるきっかけになったと感じました。

中国大会を終え、全国大会出場の切符を手にし、子どもたちの次の目標は「日本一」と決め、約一か月の練習に取り組みました。練習がうまくいかなければ、子どもたちで話し合いをして、「自分たちで練習を作る」という活動をしました。

横浜で行われた全日本少年野球大会

では、これまで以上の緊張感の中で試合をしました。一回戦の序盤に大差をつけられたけど、あともう少しというところまで追いつき、最後は力負けでした。最後まであきらめない姿勢は、中国地区の代表として、全国大会でも見せることができました。試合後のミーティングでは、くやしくて涙を流す子どももいました。中国大会の優勝、全国大会の敗退、うれしいこと、そして悔しいこと、子どもたちが多くの経験をできたことは、とても価値のあるものだと感じました。

これまでの野球部の活動に対して、多くの人が支えてそして協力してくださいました。八ヶ月間という短い期間で、子どもたちは多くの経験を積み、大きく成長してくれました。これまでの活動に関わってくれたすべての人に感謝し、子どもたちはこれからさらに多くの経験を積んで成長してくれると信じています。

私は、子どもたちの成長していく姿を、こんなにも近くで経験させてもらったことに感謝しています。

## 全日本少年野球大会出場

八月二十七日、二十八日の両日、横浜市で第六十九回全日本少年野球大会が開催されました。全国の児童自立支援施設の地区代表十五チームが参加し

た大会です。

広島学園は、中国地区代表として、六年ぶりに全日本少年野球大会に出場しました。

ご支援くださった多くの方々への謝意を表したいと思います。

## 一新チーム結成

一月、数少ない野球経験者と多くの未経験児童による新チームを結成。一からのチームづくりです。体力づくりから始まって、野球技術、チームワークと、課題を一つひとつ、そして粘り強く乗り越えながらです。

やる気のない者、イライラを態度に表す者、チームワークを乱す者、チームとして様々な葛藤や不満が噴出する中でのチームづくりでした。

反省点のある子どもは、練習させません。練習後、ボールを転がったままにしていたために練習が中止になったこともありました。礼儀も重要な点です。

皆が粘り強く取り組んだ結果、徐々にチームとしての形ができあがってきました。

練習試合を行い、練習成果の確認、実践感覚の習得、課題の発見などを行いました。



次の中学校に、練習試合のご協力を頂きました。

五月二十六日 福山市立二ツ橋中学校

六月三十日 熊野町立熊野東中学校

七月 七日 府中市立府中明郷中学校

福山市立東中学校

## 二 中国地区大会

### (一) 壮行式

七月十日、翌日から始まる中国地区大会に向けて壮行式を行いました。選手ひとり一人が決意を述べ、健闘を誓いました。

### (二) 中国地区大会

〔七月十一〜十三日 鳥取県〕

いよいよ地区大会です。豪雨災害の影響で、道路事情の関係から、早朝に広島学園を出発しました。心配された天候は良く、開会式後の二試合目に早速試合がありました。

初戦は優勝候補の強敵、鳥根県立わかたけ学園でした。選手は懸命にプレーし、ピンチの連続をチームワークで辛くも凌ぎ、二対一（五回時間切れ）の辛勝でした。

第一試合に勝ったことで、チームに勢いが出ました。全国大会出場の常連校となっている岡山県立成徳学校に三対〇で勝つと、チームの勢いは益々燃え上がり、鳥取県・山口県にも危なげなく勝ち、全勝での優勝でした。

試合後、保護者の方に、誇らしげに優勝メダルを見せていた子どもたちの姿が印象的でした。



## 三 全国大会にむけて

### (一) 毎日猛練習

全国大会出場が決まってからは、全国大会優勝をめざして猛暑をものともせず、毎日、一段と大きな声が学園のグラウンドに響き渡りました。

### (二) 練習試合

練習試合もこなしました。次の中学校に、ご協力を頂きました。

八月十九日 福山市立済美中学校

### (三) 湯崎知事と山木県議会議長を 表敬訪問

八月二十四日、湯崎知事と山木県議会議長を表敬訪問しました。

まず、知事を訪問しました。皆、緊張の固まりでした。でも、知事は笑顔で暖かく迎えてくださり、少しホッとしました。選手ひとり一人が自分の課題や大会に向けた決意を述べた後、学園生活の話題に花が咲きました。緊張の中にも楽しい時間でした。

最後に知事から『健闘を祈ります』と激励の言葉を頂きました。

次に山木県議会議長を訪問しました。山木議長も大歓迎してくださいました。また、同席された児玉県議会議員から練習球と、励ましの言葉を頂きました。

### (四) 子ども達の感想

〔A君〕 県知事さんとの写真撮影で、とても緊張しました。

〔B君〕 知事さんに会って、とても緊張したけど、自分の思いをしっかりと伝えることができてよかったです。

〔C君〕 県議会議長さんと話をしたり、議場に入らせてもらいました。良い経験になりました。

〔D君〕 県知事さんは、とても優しい人でした。握手もしました。

〔E君〕 今、災害で大変なものにもかかわらず、県知事さんや県議会議長さんに話を聞いてもらいました。そのことへの感謝を忘れず、これからも生活をしたいです。



### 四 全国大会

《八月二十六〜二十八日 横浜市・海老名市綾瀬市の四球場》

#### (一) 元気に出発、無事横浜に到着

八月二十六日早朝、新幹線で出発。子ども達の乗車態度の良さに、感心された乗客の方もおられました。

#### (二) 組合せ抽選会・交流会

八月二十六日の夕刻、組合せ抽選会が横浜スタジアムであり、一回戦は関東地区代表の埼玉県立埼玉学園との対戦になりました。大会会場が横浜スタジアムではなかったことを、子ども達は残念がっていました。

#### (三) 開会式

横浜スタジアムで、出場十五チームの入場行進。広島学園の選手は、胸を張り、腕を大きく、脚を高く、堂々の行進でした。開会式の間も、姿勢を崩すことなく、整然と立派な態度でした。

#### (四) 試合結果

##### 《一回戦》(対 埼玉県立埼玉学園)

大会の会場は、これまで体験したことのない人工芝のグラウンドで、広くとてもきれいなところでした。児童たちも会場のきれいや、初めての人工芝のグラウンドでの試合に、気分も上がっていたのと、全国大会初戦ということ、ウオーミングアップからとて

も緊張していました。

緊張をほぐすために、ウオーミングアップで体をしっかりと温め、円陣で大きな声を出し、いつも通りに進めていきました。投手の児童も、決して調子が悪いというわけではなく、試合をするために必要な準備は、しっかりと行なったが、児童の動きはかたく、ミスが多くてました。そして、慣れない人工芝のグラウンドで、足を滑らす児童もたくさんいました。

試合が始まり、最初の守備で、相手の打者が打った打球が高いフライとなり、みんなが「打ち取った。」と思いましたが、ランナーが一塁へ。そこから中国大会ではなんとか乗り切ってきた守備ですが、練習の悪い部分が出て、連鎖反応で打球が飛ばば、落球や送球ミス、連携のミスなどが続き、チーム全体の気持ちが落ち、『負けムード』となっていました。初回に五つの失点をし、『負けムード』でベンチに帰ってきた児童に、厳しい声掛けをしました。

次のイニングから、児童たちは切り替えて頑張り、守備でも攻撃でも踏ん張り、これまでの練習の成果が発揮され、攻撃もつながり、一気に四点とるイニングもあり、「逆転が出来る」と、チームの雰囲気も変わりました。しかし、あと一步というところで、相手の守備に阻まれ、追加点を取ることができ

きませんでした。相手の攻撃がつながり、気が付けばコールドでのゲームセットとなっていました。

中国大会では、練習した良い部分が多く出て、悪い部分が少なく、勝利することが出来ました。しかし、この全国大会の試合では、練習してきた良い部分と、悪い部分が均等に出たように思います。ミスの多さが敗戦につながった、と実感しています。

児童は、その時出せる実力をすべて出し切り、よく頑張りました。良い部分をたくさん引き出せなかったのは、監督として、とても悔しく感じています。



#### (四) 子ども達の感想

《A君》 僕が野球部の活動をおして学んだことは、チームワークです。野球の活動をやるなかで、だんだんとルールがわかり、野球と言うスポーツは、一人でプレーするのではなく、チームの全員がお互いを励まし合い、助け合い、協力することができてからこそ野球だと思いました。一人で張り切っても、チームがまとまらなかったら、野球がまとまらないことを学びました。また、ミスをした人への励ましの声掛けや、一つ一つのプレーに声をかけることの大切さを知りました。

野球部の活動の中で、自分が成長したと思うことは、困っている人の助けをしたり、協力するようになったことです。野球は、チームの中でお互いに助け合うことができるからこそ試合に勝ち、チームワークが生まれてくるのだと思います。僕が守備に就いたときは、カバールをしたり、カバールをしてもらったりしました。それもチームの中の助け合いだと思い、寮生活の中でも、手伝いや手助けができるようになりました。

これまでの野球部の活動で、頑張っておけばよかったと思うことは、声を出すことです。声かけをするだけでも、次は頑張ろう、と言う気持ちになって、切り替えてプレーに集中できるようになると思います。だから、もっと声掛けをしてあげばよかったと思います。

《B君》 僕は、副キャプテンとして皆の手本となる行動ができるのか、と不安になり、一つ一つのプレーや行動が大変でした。辛かったことは、声を出し続けたことです。声を出し続けながらプレーなどをしていると、体力が減っていくので、そこが辛かったです。それに、全体の雰囲気が悪いときに、どのような声掛けをすればよいか分からない時が、一番辛かったです。

野球はチームプレーなので、自分勝手な行動をしないこと、仲間と協力してやること、仲間を励ますこと、感謝の気持ちを忘れないことなどが、とても大切だと分かりました。また、一つ一つのプレーを全力でやるのが大切なのも学びました。

《C君》 チーム全員が揃って横浜に行く、チームで約束しましたが、それは叶いませんでした。これは、行けなかった人の責任ではなく、僕も含め、チーム全員の責任だと思っています。行けるメンバーで、残る人の分まで頑張ろうと決めました。もちろん、日本一をとる気で大会に参加しました。しかし、結果は初戦敗退でした。やっぱり、チーム全員が参加できなかったことに、大きな原因があったと感じています。すごく悔しかったです。

副キャプテンとして、もっともっとチームを励まし、助け合い、チームのために貢献すべきでした。勝って学べ

ることよりも、負けて学ぶことの方が大きいと思うから、ある意味、僕たちにとって良い経験でした。

この大会をおして、チームで丸となることの大切さを改めて感じました。一般の野球部は、野球がやりたくて皆が入部しているけど、ここはそうではありません。だからこそ、チームでまとまることの難しさを感じました。これまでも、難しかったり、大変だったり、辛いこともありましたが、特に、試合の中でどれだけ点差が開いても、腐らずにやっていくことです。

試合中に、「もう無理だ。」と、諦めてしまうことも多々ありました。「無理だ。」と思った時に、どれだけ踏ん張って、修正し直せるかで成長の度合いは全然違うと思います。なので、これから「しんどい」「諦めたい」ということがあっても、それは成長できる合図だと思つて頑張ります。

野球が始まってから、野球部の先生方や知事さん、県議会の議長さん、横浜市の方々など、たくさんの方の支えがあったからこそ、毎日練習ができた、大会にも参加することができたと思います。感謝の気持ちを一生忘れず、今回の全国大会などの貴重な経験を活かしていきます。そして、約七ヶ月間の野球部で学んだ、チームワークや思いやり、友情、絆、忍耐や修正力、素直さ、コミュニケーション力など、生きていく上ですごく大切なことです。

野球が上手くなるためにやっているのも理由の一つですが、一番大きいものは、やっぱり社会性や協調性を身に付けるためだと思います。だから、生活も野球もつながっていると、先生方はよく言われているのだと思います。最後に、僕は、今のチームメイトだったからこそ、全国大会に出場できたと思います。皆と一緒に野球ができたことをすごく幸せに思うし、誇りにも思います。



#### (五) おわりに

子ども達は野球を通じて大きく成長しました。体力、忍耐力を始め、規律の大切さ、仲間への思いやり、感謝の心など、実に多くのものを獲得してきました。それは、自分の課題を一つずつ乗り越えることでもあります。

今回は、初戦敗退の結果でしたが、全国大会に出場したことは、大いに自信になったと思います。

しかし、野球は手段の一つであって広島学園の目的は、あくまで子ども達の育てなおしであり、それは野球の結果とは関係なく、今日も続いています。今回の全国大会出場に際して、前述のように、実に多くの方々の暖かいご支援を頂きました。いつもにも増してその有難さを実感した次第です。子ども達の自立のために、今後ともご支援をお願いします。

#### 《ホームページ》

広島県のホームページの中で、「県立広島学園」のページがあります。支援者の方との交流や学園の行事の様子などを掲載しています。ぜひぜひご覧ください。

(<https://www.pref.hiroshimagakuin.jp/ski/hiroshimagakuin/>)